

死ぬまで楽しく勉強を

大社 充

エルダーホステル協会東京事務所長

「スウェーデンの国会に託児所ができたって、うちのお婆ちゃんが言ってたよ」と話すのは赤ちゃんを抱えた若いお母さん。物知りなお婆ちゃんだと思って聞けば、わがエルダーホステル協会のプログラムに参加して、北欧諸国を旅してきたというのです。私もうれしくなりました。

世界を旅するエルダーホステルの仲間たちの平均年齢は60歳をゆうに上回ります。これまでの高齢者のイメージを打ち破る元気さで、その旺盛な知的好奇心に応えてくれる多種多様なプログラムに参加して人生を存分にエンジョイしているのです。

このエルダーホステル協会は、アメリカで生まれた高齢者のための生涯学習運動がもとになっています。国内および世界各地の大学や教育機関が中心となり、政治経済から文学、歴史、芸術をはじめとするコンピューター、各種アウトドア・スポーツと、ありとあらゆるプログラムが提供されています。

1988年から始まった日本人向けの日本語での旅行のプログラムも、今では世界15か国に広がっています。「アラスカ大学でオーロラ観測」「激動の東南アジアをタイの一流大学で学ぶ」「本場ドイツでオペラ三昧」「シルクロードの歴史と文化」「文明の十字路—トルコの歴史」など、通常の観光旅行では絶対得られない知的興奮が味わえます。

海外旅行が苦手な方には国内のプログラムも充実しています。トレッキングやカヌー教室、気功入門など、健康・アウトドア関連の講座をはじめ、東北の祭と芸能を訪ねたり、地元講師が随行しての自然観察や歴史散策など、物見遊山の旅では飽き足らない人々に好評です。

本来、学問とは知を愛でる行為。学校

(SCHOOL)の語源はギリシア語のスコレーで、「閑暇」を意味するそうです。まさしく、手段としての勉強ではなく、純粹に学ぶことそのものが楽しみであり、目的でもあるエルダーホステルは、高齢者に大きな変化をもたらす画期的なプログラムなのです。

人生80年の時代といわれて随分たちますが、子供が独立し、仕事からも解放された夫婦が、家に籠りっきりで、孫が生まれた途端〈お孫ちゃん命〉なんて話はまだまだよく聞くとこです。しかし一昔前とは似て非なる高齢者、まさしく〈新人類〉がどんどん出現しているのも現代です。

「60代はひたすらチャレンジ、

チャレンジしていきたい

新しいことを始めたって、

10年もすりゃ格好つくさ

70代はそのおつり

あとは野となれ山となれ

死ぬまで青春

石のような顔のジジイには

なりたくない」

エルダーホステル協会に届いたプログラム終了後の参加者の手紙です。自由時間を獲得した60歳からが、知的好奇心を持って広い世界へ飛び出すチャンスなのです。

そうした世代の人々にとって、学ぶことは、さまざまな出会いや体験を通して自分と世界との「つながり」を深めることであり、新しい自己を発見する“喜びの創造”そのもののなのです。

「自分探し(自分発見)」の旅にでかけることを若い方も、身近な方々にすすめてみてはいかがでしょう？